

2022.3.17

第4回「副首都ビジョン」のバージョンアップに向けた意見交換会

参考資料

学生との意見交換について

副首都推進局

学生との意見交換について

- 今般の学生との意見交換は、第1回会議において、「若者の意見も聞くべきではないか」とのご提案をいただきましたことを受け、当局の「『副首都・大阪』大学連携プロジェクト」のリサーチ・プレゼンテーション事業に参画いただいている学生との意見交換の機会を設けたものです。
- 学生の新たな視点や考えなど、様々に意見交換を行っていただくことで、今後の議論の更なる活性化につながればと考えています。

(参考) 大阪府・大阪市副首都推進局「『副首都・大阪』大学連携プロジェクト」の リサーチ・プレゼンテーション事業について

- ・府内外の大学と連携し、学生自ら副首都ビジョンに関連する社会課題をテーマに掲げ、その演習・研究活動等を行っていただく事業です。
- ・本事業により、次世代を担う若者が大阪や日本の将来を考える契機とするとともに、「副首都・大阪」に向けた取組みの理解促進及び機運醸成につなげてまいります。
- ・また、ご参画いただいている大学には、実際に行政の現場に携わっている職員と対話する機会や、学生がプレゼンテーション等を通じて社会人基礎力を向上する機会としていただいています。
- ・令和3年度は、追手門学院大学、大阪経済大学、慶應義塾大学、桃山学院大学の4大学、合計27名の学生にご参画いただき、本事業を進めました。

■ 事前にヒアリングした学生の主な意見

キーワード	意見・問題意識
日本経済の低迷	- 日本型雇用慣行（終身雇用や年功序列）が一番大きな要因ではないか。ひとつの会社に長く定着するシステムは、人に慣れを生じさせ、職場の固定化や緊張感の不足につながり、結果的に職場の多様性や労働生産性に影響すると考える。 - 政府の過度な支援にも要因があるのではないか。2021年の企業倒産件数は前年よりも減少しており、市場から退出すべき企業が市場に残っていると考える。 - 職場の多様性の観点が欠如しているため、外部からの新参者に対して排他的な傾向にあり、労働市場の流動性が高まらないことが要因にあるのではないか。
日本経済の将来に対する不安	- 少子高齢化による社会保障の問題はもとより、先行きの不透明さが不安。 - 赤字体質から脱却できない財政収支に不安を覚える。新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて、さらに悪化した財政収支を今後どのように改善していくのか。 - 日々変化していく社会についていける人材の育成ができていないのが不安。
労働市場の流動性	- 現状は過度に流動性が低いと感じる。 - 中途採用がされにくい環境を改善する必要があるのではないか。企業においてリスキリングやリカレント教育を進めるなど、社会人がスキルアップできる環境整備を進める必要があるのではないか。
働き方・就職に対する価値観	- プライベートを圧迫することがない限りは、働き方に特別なこだわりはない。公私の分別は、仕事の効率を向上させ、企業にとってもプラスになると考える。 - やりたいことのためには、転職も視野に入れる。転職は、スキルを身につけるための一つの手段と考える。 - 就職では、自分がやりたいこと、成し遂げたいことなどを重要視している。 - 起業やスタートアップなどへの就職も関心はあるが、何をすればよいのかや、チャレンジをして失敗したときのことが不安。起業やスタートアップのことを知るための講座などがあればハードルは下がる。

■ 事前にヒアリングした学生の主な意見

キーワード	意見・問題意識
職場の ダイバーシティ (多様性)	- 女性でもチャレンジできる環境整備をしてほしい。例えば、フレックスタイムを導入し、育児を行いながらチャレンジできる環境や、男性の育児休暇取得率の向上と制度設計の見直し、平等に能力で扱われる企業形態を作るなど。 - 職場から離れた女性が安心して職場に戻ってこられるような、育児に関する制度をより充実させてほしい。
環境	地球規模で環境問題が日に日に深刻さを増していることもあり、経済成長にとって環境問題の解決は切っても切れない関係と考える。SDGsなど、環境問題への取組みを示す企業に対しては、ポジティブな印象を感じるため、環境問題の解決は、経済成長にとっても重要ではないか。
DX	- 行政のDXから取り組むべきではないか。行政は、様々な業種と接点があるため、行政機関のDXを目の当たりにすれば、各分野でDXの意識が芽生えるのではないか。 - 住民の利便性向上に重点を置く必要があるのではないか。そうすることで、DXの活用によって得られる恩恵を住民の方々が実感でき、オプトイン型のDXを進めやすくする土壌が形成されるのでは。 - 災害に強いまちづくりからDXを導入し、災害レジリエンスを高めてほしい。
いまの大阪に あるもの	- 活気があると感じる。 - 魅力ある人々（あっけからんとした豪放さや、力の良さ、明るい性格で、はっきりと楽しいものや正しいことには積極的に賛成を示し、参加してくれる、など） - 国内でも東京に次ぐ2番目の経済規模を有し、多くの中小企業が存在感を示しているように感じる。加えて、おいしい食べ物が多くあり、京都や神戸といった観光地にも比較的気軽に足を運ぶことができるなど、「職住遊」の環境が整っていると感じる。
いまの大阪に ないもの	- 人口が不足している考える。 - 日本の主要機関が足りないのではないか。 「副首都ビジョン」をはじめとした各種政策について、東京を追いかけている印象で、「大阪らしさ」が欠如しているように感じる。

■ (参考)学生への事前ヒアリング事項

- 第3回意見交換会では、日本経済が低迷している要因として、労働生産性が低いことや、市場の流動性が高まらない（生産性の低い企業が市場から退出しない）こと、職場の多様性が低いこと、資金が流動していないことなどが挙げられました。みなさんは、何が一番大きな要因と思いますか。
- 日本経済の将来を不安に感じますか。不安に感じる場合には、どのようなことに対する不安が一番大きいですか。（少子高齢化による社会保障の問題、年金受給に関する問題など）
- 国民の豊かな生活を実現するためには、経済成長を推進し、より稼げる都市となることが重要との考え方がある一方で、経済成長を優先することで、富裕層と貧困層の格差がより拡大してしまうのではないかという意見もあります。こうしたことについて、どう考えますか。
- 今後の働き方について、「同じ企業でずっと働き、専門性を高めたい」または「よりよい給料や役職を得られるならば、転職も視野に入れる」、「趣味・余暇・家族などとの時間が大切であるため、働き方に特にこだわりはない」など、みなさん自身はどのように考えていますか。
- 日本は、労働市場の流動性が低い（転職やキャリアチェンジが難しい）と言われています。その要因として、新卒一括採用で中途採用が少ないこと、諸外国と比較して労働者の解雇が厳格であること、また、健康保険や年金など社会保障の多くが企業に紐づいており、さらには、早期で退職すると、退職金が低くなることなどが挙げられています。こうした労働市場の流動性が低いことについて、みなさんはどう考えますか。
- イノベーションを多く生み出すためには、その担い手であるスタートアップ・ベンチャー・起業家などの育成が重要と言われています。みなさんは、スタートアップ等でチャレンジしていくことについて、関心がありますか。また、職業選択のひとつとして、考えられますか。
- イノベーションを起こすためには、職場でのダイバーシティ（多様性）を高めることが重要と言われています。とりわけ、女性が働きやすくチャレンジしやすい社会となるために、何が必要と考えますか。
- 昔は、「経済成長」と「環境問題の解決」は相反するものという考え方でしたが、現在では、「環境問題の解決に資する取組み（新しい技術の導入など）を推進することで、経済成長につながる」という考え方もあります。こうした「経済成長」と「環境問題の解決」の関係について、みなさんはどう思いますか。
- 会津若松市では、DX（デジタルトランスフォーメーション）を活用し、地域経済の活性化や、産業や雇用の創出、住民の利便性の向上などにつなげる取組みが行われています。みなさんは、DXを導入するにあたって、どのような分野から取り組むべきと考えますか。
- みなさんは、大阪・関西で就職したいと思いますか。思う方はその理由を、思わない方は、なぜ、就職したいと思わないかの理由をお答えください。
- みなさんは、大阪について、どのようなイメージをお持ちですか。（大阪の個性や特徴、大阪らしさとは何だと思われますか。）
- いまの大阪に足りないものは何だと思われますか。率直にお答えください。